

農村ワーキングホリデー

～地域と学生の協働による相乗効果～

農村ワーキングホリデーって何？

農業や農村に関心を持ち、田舎暮らしや農作業を体験してみたいと希望する都市住民に、繁忙期で猫の手も借りたいという地元農家が体験希望者に農作業を手伝ってもらうことと引き換えに、寝食を無償で提供するものです。

これは農家との深い交流を特徴とする日本型グリーン・ツーリズムの仕組みの一つです。

私たち和歌山大学の取り組みは「鏡効果（交流による他者の目線を借りた気づき）」の創出を試みています。

近年様々な農村ワーキングホリデーが行われており、参加を契機として田舎暮らし希望者や就農者が増加するなど、農村再生に画期的な成果を上げていることから、全国的に注目を集めている取り組みです。

実際のフィールドの紹介

岩手県胆江地方（奥州市・金ヶ崎）…岩手県内部に位置しており、胆沢川によって開かれた胆沢扇状地が広がる地域。「おうしゅうグリーンツーリズム協議会」が小・中・高校生を対象とした体験型教育旅行を行っているほか、農家レストランや農村ワーキングホリデーなど様々な取り組みをしている。

参加のきっかけは…？

- ・農村での暮らしや伝統、食文化、方言などに興味があったから
- ・地域再生に関連する講義をいくつか受け、実践の場に出てみたかったから
- ・異文化に触れることで見聞をひろめたかったから

小さなきっかけから
大きな学びへ

参加してみてどうだった？

- ・気候や震災に大きく左右される農業を生業とするものの困難さを知ったと同時に試練は乗り越えられるものにしかない」という話を聞き、農家さんの強さを感じた。
- ・農業経営も地域や家庭ごとで全く違い、また農業をする上での金銭の話なども聞くことが出来、農家さんのリアルを知ることが出来た。
- ・家族や地域の密な人間関係を知り、重要なのは「何をするか」だけでなく「誰とするか」であると感じた
- ・生産過程を知ることで、農作物や食肉に対して感謝や尊さ、それを頂くものとして責任を感じた
- ・自分の抱いていたイメージと現実の違いから、まさに「百聞は一見に如かず」だと思った。

発見した課題！

- ・地域での活動が交流に止まっており、協働へとステップアップさせることが出来ていない。事前学習や振り返り参加者との勉強会など通じて、知識や経験を引き継ぐ作業が必要だと感じた
- ・学生との交流によって、受け入れ農家さんや地域にどういった変化があるのかを知れる機会が少ない